

# 青少年もがみ

第12号 平成22年8月2日

— 発 行 —

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会  
最上地区青少年育成推進員連絡協議会



## 「子どもの脳を守るセーブメディア運動を」

最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会長 矢口 信 一

早いもので1年の半分が過ぎ、このところ参院選やサッカーW杯、また、世界を騒がす出来事等が、テレビやネットを賑わしています。昨年、戸沢村民フォーラムにおける田澤先生の講演「子ども達の脳が危ない～テレビとゲームの影響」は、拝聴者に大きなショックを与えました。これを機会に、子ども達の基本的な生活習慣の育成へ向けて、アンケートの実施、セーブメディア運動等を立ち上げました。

過剰なメディアとの接触は、子どもの脳（こころ）の「慢性疲労」を増幅させ、気力や感情をコントロールする力を奪い、睡眠障害や不登校、「キレル」等へ繋がる危険性が心配されています。ところが、「テレビ、ゲーム」との接触時間を制限することで、症状の回復や予防に効果があることを提言し、大きな反響を呼びました。また、今年のフォーラムでは、「ノーテレビデー、ノーゲームデー」の村内一斉の取り組みの状況、そして、これらの実践校の仙台市立広瀬小学校元校長菊地氏より、実態を集約したお話を聞くことができました。心身ともに健康で、たくましい子どもの育成を目指して、セーブメディアの取り組みを家庭、学校、地域の連携でチャレンジしてみませんか。



## 「何かを生み出す苦勞と喜びの大切さ」

最上地区青少年育成推進員連絡協議会長 大 山 孝 一

私たちは機会あるごとに‘大人が変われば子どもも変わる’を唱えてまいりました。しかし、大人が変わることに苦慮しております。古い時代の大人は、自分の後姿を見せて子どもを育てた、と聞いております。誰も、自分の後姿は見えません。言い換えれば、顔のような表情が背中では作れません。その人間の真の姿が背中に見えろと思ひます。

先日、鳥海山にトレッキングに行つてまいりましたが、その森にはブナの奇木が沢山ありました。実は、その森は江戸時代に幕府へ炭を献上するための炭焼きの森のようでした。先人の方々は、木材の子孫を残すために、雪の高さの枝の場所で伐採し、後世のために根と幹を残したようです。その後、その幹から何本かの芽が育ち、今は大木として、私たちにその姿を見せてくれておりました。

この先人たちのように可能性を信じて、何かを残してやるのも子ども達への指導の一手法のように思えます。しかし、今の子ども達は守られ、すべて準備された環境の中で活動しております。昔から、段取り七分とも言ひます。その部分に子どもも参加させて、仲間と一緒に考え工夫させ、苦勞させてこそ真の喜びがあり、子ども達には創造する喜びと苦勞を体験する取り組みになるのではないかと思ひます。

## 平成22年度 青少年育成両連絡協議会の主な事業

平成22年度の最上地区青少年育成市町村民会議連絡協議会総会と最上地区青少年育成推進員連絡協議会理事会が合同で6月22日午後3時から最上総合支庁で行われ、両連絡協議会の21年度事業報告と22年度事業計画案が承認されました。将来を担う明るく元気な青少年の育成を目指し、各市町村の活気あふれる諸活動の推進をよろしくお願ひします。

### 青少年育成市町村民会議連絡協議会

- 1 市町村民活動への支援事業の実施
- 2 青少年育成活動情報誌「青少年もがみ」第12号・13号の発行
- 3 青少年の健全育成に関する事業の実施
  - 大人が変われば子どもも変わる県民運動：重点期間7・8月、11月
  - 有害図書類陳列状況調査
  - 青少年の非行・被害防止全国強調月間：7月
  - 違法簡易広告物除却活動：6・7・11月
  - 青少年健全育成全国強調月間：11月
  - 青少年育成懇談会の開催：12月11日予定、新庄市民プラザ

### 青少年育成推進員連絡協議会

- 1 推進員研修会の開催：大蔵村を会場に
- 2 青少年育成懇談会の開催：管内の高校生と青少年育成関係者
- 3 機関紙「たづな」第35号の発行：3月予定

